宮城県における全国がん登録への対応（第 4 報）

初年度の届出エラーのフィードバックを目的とした説明会の開催

目崎 はる香[1]　齋藤 美登里[1]　佐藤 優希[1]　佐々木 真理子[1]
鈴木 智子[1]　西方 萌[1]　只野 尚子[1]　金村 政輝[1,2]
[1]公益財団法人宮城県対がん協会　[2]宮城県立がんセンター

【目的】

宮城県では約 140 の病院があるが、これまで地域がん登録事業に協力してきた病院は約 40 に過ぎない。がん登録への関わりが初めての病院でも適切に届出を行えるよう説明会などの支援策を実施してきた[1,2)]。しかし、実際に全国がん登録の届出が始まったところ、ほぼすべての施設の届出にエラーがあった。そのため、届出エラーについてのフィードバックを目的とした説明会を開催したので報告する。

【方法】

説明会は 2 部構成とし、第 1 部は「平成 28 年症例からみた届出エラーとその対策」とし、「エラーのない届出のために」、「CSV ファイルを使ったエラーチェックの方法」と題して説明を行った。第 2 部は届出書の作成をテーマとした演習とした。説明に用いた資料を図 1～4 に示す。届出エラーについては、理解しやすいよう実際にあった例を「よくある間違い」として紹介した（図 2)。届出書の作成方法の違い（電子届出票へ直接入力か CSV ファイル添付か）によりエラーチェックの方法が異なるため、双方で利用可能な資料を作成した（図 3, 4)。演習では、短答問題 3 題と症例問題 2 題を作成し、症例問題では複数の施設の視点での届出書作成とした。終了後、参加者を対象にアンケート調査を行い、内容について理解できたかどうか 5 段階で回答を求め、また、自由記載欄（質問、意見・要望）への回答を依頼した。

図１　説明資料（例１）

図２　説明資料（例２）

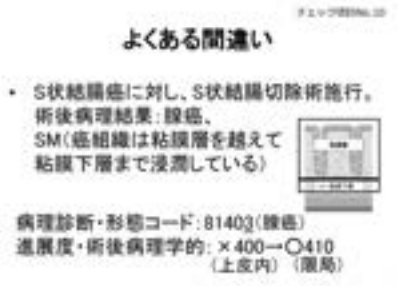


図３　説明資料（例３）

図４　説明資料（例４）

【結果】

80 施設から 116 名が参加し、105 名（91%）がアンケート調査に回答した。職種別では、診療情報管理士 38%、事務職 53%、合わせて 91%であった。「エラーのない届出のために」については、「十分理解できた」と「だいたい理解できた」の合計は 82.9%であった（図 5）。「CSV ファイルを使ったエラーチェックの方法」については、「十分理解できた」と「だいたい理解できた」の合計は 66.6%であった（図 6）。「届出書の作成（演習）」については、「十分理解できた」と「だいたい理解できた」の合計は 91.5%であった（図 7）。職種別で見ると、「CSV ファイルを使ったエラーチェックの方法」についての理解度が異なっており（図 6）、診療情報管理士では「理解できた」が 95%と高かったが、他の職種では低かった。自由記載では、「今後も開催してほしい」など評価する意見が多かったものの、「覚えきれない」との意見もあった。

図５　内容の理解（エラーのない届出のために）

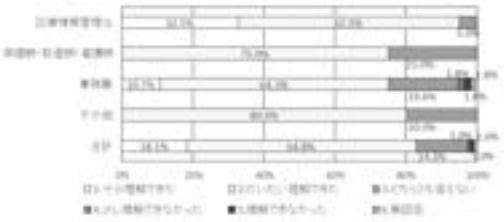


図６　内容の理解（CSVファイルを使ったエラーチェックの方法）

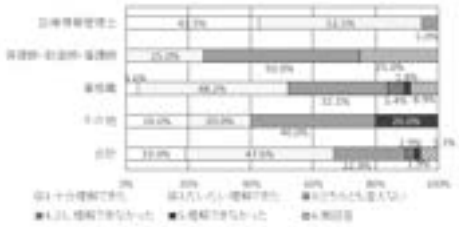
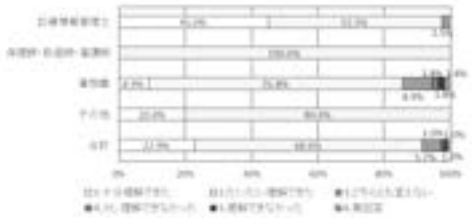


図７　内容の理解（届出書の作成・演習）



【考察】

「CSV ファイルを使ったエラーチェックの方法」については、職種により理解度が異なっていたものの、その他の内容については、概ね参加者の理解度が高く、当初の目的を達成できたものと考えられた。今回、エラーチェックの方法を説明したが、電子届出票の段階でロジカルチェックを組み込むことにより届出エラーが大幅に減少する可能性が高く、是非システムに反映されることを期待したい。今後も、がん登録実務経験の少ない担当者であっても届出が適切に行われるような支援策を検討・実施していきたい。

引用文献

1）金村政輝，佐々木真理子，齋藤美登里，長澤あかね，鈴木智子，鈴木美裕紀，只野尚子：宮城県における全国がん登録への対応－届出病院支援の取り組み－．JACR Monograph 2016;22:132-139.

2）長澤あかね，佐藤優希，目崎はる香，齋藤美登里，佐々木真理子，鈴木智子，鈴木美裕紀，只野尚子，金村政輝：宮城県における全国がん登録への対応－届出病院支援の取り組み（第 2 報）－．JACR Monograph 2017;23:89-93.